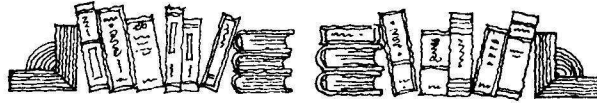


国語国文学会だより



No. 4

1990. 11

国文学科卒業生の会

国語国文学会

秋季大会・公開講演会へのご案内

平成二年度の秋季大会・公開講演会を、左記のように開催いたします。ご多忙のことと存じますが、お誘い合わせのうえにご出席くださいますよう、ご案内申しあげます。なお、会員以外の方々のご来場も歓迎いたします。

日時・平成二年十二月一日(土)午後一時三十分～五時
場所・八十年館 八五一教室



開会の辞

*研究発表 午後一時三十分～二時二十分

(1) 私家集の構成意識―流布本相模集の公
資、定頼歌群をめぐって―

(2) 辻邦生『夏の砦』―甘美な「向う側」への旅―
本学卒業生 近藤みゆき氏

本学大学院修了生 高橋智子氏

*活動報告

午後二時二十分～二時三十五分

*講演

午後二時四十五分～五時

(1) ゲーテとシラー

国文学科教授 亀山健吉氏
(2) 三島由紀夫 最後の作品をめぐって
本学卒業生 小島千加子氏

閉会の辞

懇親会へのご案内

秋季大会終了後、桜楓会館に場所を移して、

先生方、在学生をまじえての懇親会を開催いたします。

会員同士の交流、本学会へのご意見など、今後の会の飛躍発展につながるような交歓の場にしたいと存じます。

ご出席ご希望の方は、当日受付けにお申し込み下さい。会員の皆様の、多数のご出席を

お待ちしております。

時・午後五時十五分～六時三十分

場所・桜楓会館三階

会費・卒業生 二千元

在学生 一千元

(大会当日、申し込み時にいただきます。)

講演会 講師プロフィール

亀山健吉氏

一九二二年生まれ。一九四八年東京大学文学部倫理学科卒業後、ガリオア留学生として米国へ、フンボルト財団留学生として西独へ留学。愛知学芸大学講師を経て、現在日本女子大学教授。専攻は倫理学、特に人間関係と言語。主著訳書は『フンボルト―文人・言語学者・政治家―』フンボルト著「言語と精神」。

亀山先生は三十六年間、一般教育課程で倫理学、独逸語を教えていらつしやいましたが、今年は幸運なことに国文学科にいらして下さることになりました。一年の時、倫理学のご講義で、ゲーテについて熱く語られる先生のお姿に感激し、卒論を見ていただいている人も少なくありません。先生のご専門は森鷗外ですが、近代文学全般のみならず大變博識でいらつしやることは驚くばかりです。英語も独逸語も堪能でいらして、お孫ちゃん見君がご飯を食べる時に、独逸語で「おいしい」と言うように特訓していらつしやるという、微笑ましいエピソードもあります。今年限りなのは残念ですが、先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

小島千加子氏

本名小島喜久江。国文学科卒業（第四十六回）後、一九四八年新潮社に入社。文芸誌『新潮』の編集記者から出発、一貫して編集の仕事に携わって来られ、編集部副部長を勤め、一九八八年九月に定年退職された後は著作に専念されていらつしやいます。著書に『三島由紀夫と檀一雄』があり、この特異な作家二人とは格別親交がおり、で、三島由紀夫最後の原稿の受け取り手としてのいきさつなどが語られています。刊行当時センサーションを起こしたことなど、未だ記憶に新しいところです。最近、『作家の風景』を毎日新聞社より刊行。室生犀星、川端康成等著名な十七人の作家との交渉を感銘深く描いておられます。又詩集に『虹のかけ橋』があります。



春の総会・研究発表会報告

春の総会・研究発表会が、五月三十一日（木）香雪館四〇一番教室において開催されました。

会は、浅野三平本学会会長の挨拶に続き、第一部は、研究発表会で、学部卒業生、院修了生による熱心な発表（論題等、三号にて既報）が行われました。

第二部は総会で、昨年度の活動報告・会計報告及び今年度の活動計画・予算案について、在学生、卒業生より説明がなされ、それぞれの案件を審議、承認されました。昨年度は卒業生の会としては実質的な初年度であり、特に在学生と共に活動した秋の講演会とそれに続く懇親会、自主サークル等が報告され、今年度への継続、充実が期待されています。又、役員紹介を行いました。今年度から卒業生の運営委員が拡大され、旧制の回生よりの委員も加わり、一層の活動の発展を志しています。

最後に、学科及び、大学院日本文学専攻に設けられている久松潜一奨学金及び、上村悦子奨学金、中島斌雄奨学金の授与式が行われ、閉会となりました。

「自主ゼミ」報告

*平安文学談話会

昨年度の「枕草子を読む会」に引続き、今年度は平安文学に関する研究を、各回メンバーから一名が報告し、その後ディスカッションという談話会形式で行っています。第一回は発足記念として、小松登美氏による和泉式部正集における帥宮の意識を、新しい視点から探る示唆に富む論が展開されました。次回は、十一月二十四日(土)加藤直子氏「公任と和歌」の予定。みな様のご参加をお待ちしています。

連絡先 高野晴代 ☎三七〇一六八〇六

*内親王総覧作成

日本文学に少なからぬ影響を及ぼした内親王たちの記録を様々な文献より拾い上げ、「総覧」を作成することを目的としています。現在、平安朝篇作成中。

個人作業が中心ですが、偶数月第一土曜日には、図書館一階の共同研究室で活動します。興味をお持ちの方、責任者・柳澤までご連絡下さい。会報をお送り致します。

連絡先 柳澤理恵子

☎四五―八四一―六五二五(楠木方)

*古代中世文化論

第四月曜 午後一・三〇〇。一九八九年七月スタート。八月には、「洛陽田楽記(大江匡房)」九月から現在も進行中の「新猿楽記(藤

原明衡)」これは一九九一年三月ごろまで。その後「風姿花伝(世阿弥)」、つづいて、「作庭記」「徒然草」などを予定しています。民俗芸能、能、文楽の鑑賞会も随時行っています。入会歓迎!

連絡先 山田佐和子 ☎九七二―四八四三

*能楽研究会

この会の母体は、女子大の能楽研究会の卒業生です。宝生流が四十年余、観世流が三十年程の歴史がありますが、最近では細々と続いている状態です。学生のバックアップと自分達の向上を目標にしています。現在謡曲指導役の都合により、本格的な活動はしていませんが、謡曲の稽古を中心に、「花伝書」などの研究もいたします。月に一度、土曜日を予定しております。(謡曲初心者、歓迎します。)

連絡先 亘理美代子 ☎九四七―二〇四九

*中島斌雄先生の俳句を読みながら

場所 日本女子大学人間社会学部会議室

(川崎市多摩区西生田一ノ一)

小田急線 読売ランド前駅下車)

連絡先 綾野道江

☎〇四四―九六六―五四二五

*国文学科卒業生の文学活動をたどって

まだ実際の活動に至っておりません。近々講師を招き、第一回の会を開き、方針、日程など具体的な活動に入ります。

連絡先 斎藤 令子 ☎七八一―六三八〇

―学生の部会活動報告―

学生の部会では、七月七日、国立劇場にて、「歌舞伎鑑賞教室」蘆屋道満大内鑑「葛の葉」を鑑賞しました。人気のある中村橋之介が出ることもあり、学会で確保した席は、ほとんど埋まりました。この日の題目は、狐が女に化ける物語で、狐と女の早替わりの演出、筆を口にくわえて一首を障子に書きのこす曲書きの演出のほか、宙づりなどの見せ場がたくさんあり、そのたびに客席がわき、舞台と客席が一体となった楽しい舞台でした。又、最初に、舞台装置、効果音の説明、作品の見どころの紹介があり、より一層、有意義なものとなりました。

後期は、静嘉堂文庫の見学、文学散歩を計画しています。卒業生の皆さまも、是非ご参加ください。

本学学長青木生子先生の二つの著書が今年六月、講談社より同時刊行されました。

- ◆ 女子の教育、女性の自立について、たくさんの論考が収められています。
- ◆ 『明日の女子教育を考える』
- ◆ 『近代史を拓いた女性たち』

伝言板

会費について

本年度の会費をまだお支払い頂いていない方には振替用紙を同封しております。よろしくお願い致します。

もし、入れ違いでお振り込み下さいました場合は何卒御容赦下さい。

『国文目白』について

「国文目白」は、これまで本会で定期購読のお申し込みを受け付けておりましたが、諸般の事情によりやむなく定期購読システムを中止させて頂きます。今号より、購読御希望の方は、毎号、直接国文学科研究室へお申し込み下さいますようお願い致します。

※申し込み 〒112 東京都文京区

目白台二一八一

国文学科研究室「国文目白」係
※冊子代金は、冊子到着後に現金書留でお支払い下さい。千円程度の予定です。

「国文目白」第30号の目次

好阿・綾足・籬島など 浅野 三平

―『近世中期小説の研究』補訂―

森鷗外とゲーテの『ファウスト』の翻訳について 亀山 健吉

『捷解新語』の条件表現(二) 非「ナラバ」

―新刊本・改修本・重刊本を比較して―

万葉集における〈七夕〉享受 奥津敬一郎・中島 悦子

―ひと夜の逢瀬をめぐって― 浅野 則子

芥川文学の残照 黒澤真奈子

弓削皇子の歌(巻三の二四二番)についての

一考察 岩野 圭子

和泉式部続集末尾「日次詠歌群」の

成立事情 鈴木 理恵

心敬の諸道論に関する一考察 村山 繁子

『暗夜行路』試論 至福への道程 有元 直子

『金閣寺』試論―疎外の鏡― 中野 裕子

歌心たぎつ歌人―五島美代子の本質について

の一考察 浜田美枝子

国語国文学会へのお誘い

クラスの友人に、ぜひご入会をお勧めください。入会には会費の納入をもって承認されます。

年間会費 千円

納入方法 郵便局から振替用紙使用で。

振替番号 東京九一九七〇七

加入者名 日本女子大学国語国文学会

※当会から入金のお知らせはいたしません。振替用紙の受領書を、保存しておいてください。

自主ゼミ設立ご希望の方へ

「国文学科内 国語国文学会 卒業生の会・企画係」あて、はがきで申し込んでください。設立の紹介は来春の総会で行います。

①研究テーマ ②責任者名 ③住所・電話

④ゼミメンバー(3名の会員がすでにいること)

当会の運営について

国語国文学会卒業生の会は、回生委員会、またその中の常任委員会、さらに学校側委員とによる運営委員会の討議によって運営されています。ご希望、ご意見をお寄せください。

一九九〇年十一月一〇日

発行・日本女子大学国語国文学会

卒業生の会